MINDAN
民団新聞

在日本大韓民国民団 機関紙
民団新聞社 発行人 呂健二
発行所：〒106-8585東京都港区南麻布1-7-32
TEL 03(3454)4611 FAX 03(5419)7555
郵便振替口座 00160-6-52652
ソウル事務所：〒04538 ソウル特別市中区明洞3ギル6
開洋ビル16階1603号
TEL 02(734)1164 FAX 02(734)1185

在日本大韓民国民団 綱領
一、우리는 大韓民国의 国是具現을 期한다.
一、우리는 在日同胞의 人権擁護를 期한다.
一、우리는 在日同胞의 経済発展을 期한다.
一、우리는 在日同胞의 文化振興을 期한다.
一、우리는 日本地域社会의 発展을 期한다.
一、우리는 世界平和와 国際親善을 期한다.

購読および広告掲載の申込み・お問い合わせ
TEL 03(3454)6375 FAX 03(5419)7555
公式サイト・スマホでも民団新聞が閲覧できます
公式サイト mindan.org
民団新聞 mindan.org/news
電子紙面 mindan.org/newspdf.php

今号の読みどころ

写真で見る民団社会の2021年
2年越しに続くコロナ禍の影響で、民団社会でも多くの行事や事業が中止・延期・規模縮小の状態を余儀なくされた。しかし、前年の経験を生かし、オンラインを活用しながらイベントや会議などを展開した。（2、3面）

北送の記憶「新ボトナム会」始動
1959年12月14日、新潟湾からの第1次北送船に乗った同胞らが新潟市内に植えた柳が並ぶ「ボトナム（柳の木）通り」のリニューアルプロジェクトが動きだした。（4面）

民団75周年「絆を未来へ」

記念イベントをオンライン配信

「韓日の懸け橋になる」

先輩たちの闘いの歴史踏まえ

民団中央本部の創団75周年記念イベント、「絆を未来へ」がオンライン映像配信の形式で20日から公開された。新型コロナウイルスの関係で、民団としては初の映像配信という試みだが、次世代たちを中心に、75年間、同胞と母国と日本社会と築いてきた絆を未来につなげていくメッセージを発信した。

次世代からメッセージ

事前に収録した映像配信によるイベントは民団75年の歩みを紹介するドキュメンタリーでオープニング。続いて、主催代表の呂健二団長、姜昌一駐日大使と金星坤在外同胞財団理事長のメッセージ、民団草創期から民団を見てきた辛容祥常任顧問の75年間の回顧でスタートした。

呂団長は「75年前、先輩たちは同胞の団結を合い言葉に、血と涙と汗を流しながら民団を築き上げてきた。70年代からは体系的な行政差別撤廃運動によって、200項目以上の国籍条項開放を勝ち取った」と振り返った。その上で「90周年、100周年に向けて皆様とともにすばらしい民団作りに進もう」と呼びかけた。

姜大使は「民団の75年はつねに祖国とともに歩んだ歳月。私たち民族の辛い歴史の中でスタートし、韓日関係や南北関係の歴史的特殊性の中で成長した。今後とも韓日の懸け橋として役割を果たされることを期待しています」とお祝いのメッセージを寄せた。

金理事長も「母国の経済発展や世界的なスポーツ大会の成功の裏には皆様の愛情に満ちた支援があったからであり、心から感謝申し上げたい」とし、「次世代育成に向けた支援に積極的に取り組んでいく」と約束した。

辛容祥常任顧問は団長時代に掲げた地方参政権獲得運動を振り返りながら、「世代が移り変わっても、次世代たちには自分のルーツをしっかり自覚して生きてほしい」と期待を寄せた。

続いて、民団の草の根である地方本部と支部の一線でユニークな活動を展開している4つの地方本部と支部を紹介した。

ここでは、今年4月に開園した大阪本部による「中崎はな保育園」、京都の「子ども食堂」、愛知・瀬戸支部の家庭訪問による団員サービス、東京・荒川支部の「オリニ事業」が紹介された。

「絆を未来へ」とのスローガンのとおり、75周年イベントのコンセプトは「次世代」に設定。21世紀を迎えた2001年に初開催し、今では民団の次世代育成イベントのシンボルとなっているオリニジャンボリー「卒業生」からのメッセージが紹介された。

今や立派に成長し、母国に修学したり、青年会の幹部を担っている6人が、未来に向けた抱負などを語った。

「オリニジャンボリーのような次世代たちのイベントにスタッフとしてお手伝いしたい」、「自分のツールを大切にし、韓日の懸け橋として生きていく」との抱負や、「これからの民団は私たち次世代がしっかり受け継いでいきます」と力強いコメントもあった。

上からテコンドーの金秀範選手、女子サッカーの康裕美選手、パフォーマーのちゃんへんさん

さらに映像では、サッカー韓国女子代表の夢を成し遂げ、2度のW杯に出場した康裕美選手、テコンドー全日本選手権9連覇の金秀範選手、世界的なパフォーマーのちゃんへんさん（本名＝金昌幸）さんと、日本と韓国を始め、世界を舞台に活躍している次世代3人がメッセージを寄せた。

また、東京、京都、大阪にある韓国系の民族学校4校の生徒たちの手によって制作された学校紹介のプレゼンテーション映像が上映された。

4地方本部が活動を紹介

最後は11月から民団のホームページで応募していた豪華賞品が当たるオンライン抽選会の当選者が発表された。

同イベントの運営委員長を務めた金泰勲民団中央副団長は「コロナ禍という中、どんな形でも全国の団員の皆さんとつながりを持ちたいと、映像配信となった。企画から準備に携わった運営スタッフにも感謝を述べたい」と75周年イベントの意義を強調していた。

この映像は民団中央本部のホームページで視聴できる。

「北送」の犠牲者偲ぶ

新潟港の埠頭で追悼式

【新潟】在日同胞家族と日本国籍を所有する伴侶など合わせて957人を乗せた第1次北送船2隻が新潟から出港してから62年目の14日、市内の中央埠頭で追悼式典が営まれた。北韓の人権問題に取り組む関係者ら30人が参加した。

はじめに脱北者の一人、川崎栄子さん（NGO「モドゥモイジャ」代表）が共催団体を代表して「在日同胞らを地獄の底に叩き込んだ事業はここから始まった。（北韓で）どれだけ過酷な生活を強いられたか。この埠頭に来ると涙が止まらない」と追悼辞を述べた。

花をたむけ死者の冥福を祈る

川崎代表が単身、北韓に着いたのは1960年のこと。当時17歳だった。清津港に着いたとたん「だまされた」とわかった。港では一人の男性が「誰も降りてくるな。その船で帰れ」と大声で叫んでいるのを目撃した。その男性は一足早く日本から入国した在日同胞だったという。

参列者全員の黙とうが終わるのを見届けた川崎代表はただ一人、一輪の花を手にとると海に投げ入れ、その場でうずくまって泣き崩れた。

川崎代表によれば、北送船に乗船した在日同胞らのうちいまも生き残っているのは「ほとんど数えるほど」だという。特に、日本人の妻や夫は強制収容所に送られていったケースが目立つという。

全員の献花が終わると、中央埠頭に鎮魂の太鼓が響き渡った。

「北送」原告団に支援金を手渡す

支援金を渡す劉会長（右）

婦人会中央本部（劉代永会長）は10日、北韓政府を相手取って北送責任を問う原告団（川崎栄子代表をはじめとする元在日同胞脱北者5人）へ支援金33万5100円を手渡した。秋季全国研修会・西日本地区参加者一同から寄せられた23万5100円に婦人会中央本部としての10万円を足した。

劉会長は原告団に代わって東京・港区の韓国中央会館を訪れた支援団体「北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会」の佐伯浩明理事長に対し、「係争中の原告5人に頑張るようお伝えください」と述べた。

第25回オリニミニサッカー

在日と日本の児童たちがサッカーで交流する6人制の第25回オリニ・ミニサッカー大会が19日、東京韓国学校校庭で開催され、在日と日本の小学生4チームが熱戦を繰り広げた。体育会関東本部（文京一会長）主催、在日本大韓蹴球協会（朴泰成会長）が主管、コロナ禍のため4チームに制限した。昨年1月以来、2年ぶり近くの開催。

4チームが総当たり戦を行い、決勝戦は予選リーグ2勝1分けで首位の西新井・ジュニアと2勝1敗で2位の豊島区トレセン。

20分の試合は1－1と両者譲らず、延長戦に突入。結果、西新井が貴重なゴールを決め、優勝した。

4チーム総当たりで熱戦を展開

各地で元気にオリニクリスマス

▲お菓子ボックスに大喜び（荒川支部）

▲神奈川はイカゲーム

▲千葉はケーキづくり

▲茨城はデジタルショー

新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきたことから、「オリニクリスマス（冬季交流会）」が各地の民団で開かれた。昨年はやむなく中止に追い込まれた地方も多く、2年ぶりというところが多かった。自粛疲れしていた子どもたちも、友だちとの再会を果たし、笑顔を取り戻していた。

東京荒川支部（鄭在桓支団長）は19日、青年会（鄭昌晃会長）が主催して開催した。ただし、昨年に続き、参加者は例年の半分程度に制限した。それでもオリニと保護者あわせて約40人が所狭しと支部会館を埋めた。

クイズで子どもたちの心をなごませたあと、ビンゴゲーム。全員がおもちゃや文房具などを手にした。

また、民団中央本部から届けられた、ロッテお菓子の詰め合わせセットをもらうと、オリニたちは豪華な「お菓子ボックス」に大喜びだった。

【神奈川】民団神奈川本部（李順載団長）は青年会神奈川本部との共催。進行を担当した青年会が韓国の人気サバイバルドラマ「イカゲーム（子どもの遊び）」をアトラクションに取り入れた。

12日、神奈川韓国会館に一昨年を上回る60人が参加。砂糖菓子を使った「カタヌキ」、「だるまさんがころんだ」、「ビー玉遊び」と「死のゲーム」が続いた。子どもたちはハラハラドキドキ、夢中になっていた。

最後にサンタさんから子どもたち全員にプレゼントが贈られた。婦人会神奈川本部は子どもたちのため朝から焼きそば、チキンなどを準備した。

【千葉】千葉では韓国教育院（李淳任院長）が主催。18日、千葉市内の民団本部会館に30人が参加。6チームに分かれてケーキ作りに挑戦した。

スポンジケーキの土台に生クリームといちご、カラーシュガーなどで思い思いにデコレーションしていった。。6チームのケーキを審査した李院長は一生懸命取り組んだ全員の努力を認め、「優勝は全チーム」。ケーキは青年会千葉本部が差し入れ。4人でオリニの世話役も買って出た。

【茨城】茨城では映像とお笑い芸人アキラボーイのアニメ漫才を融合した「デジタルショー」がオリニたちを楽しませた。民団茨城本部（金桂一団長）が水戸市内のホテルで開催。18日、24人が参加した。

大きな声を出すとアニメーションが動き出したり、ゲームの世界に入って一緒に遊ぶ「バーチャルワールド」には子どもたちばかりか、付き添いの大人も大いに楽しんでいた。

同ショーは経済産業大臣賞を受賞した。

次世代に教科書と菓子送る

民団中央本部は韓国語と韓国文化に関する教材を全国の在日同胞青少年3000人に送った。コロナ禍でこの2年間、オリニジャンボリーなど、在日同胞の次世代対象事業が中止、あるいは縮小を余儀なくされていることから、家庭内での民族教育のきっかけになればと文教局が企画した。

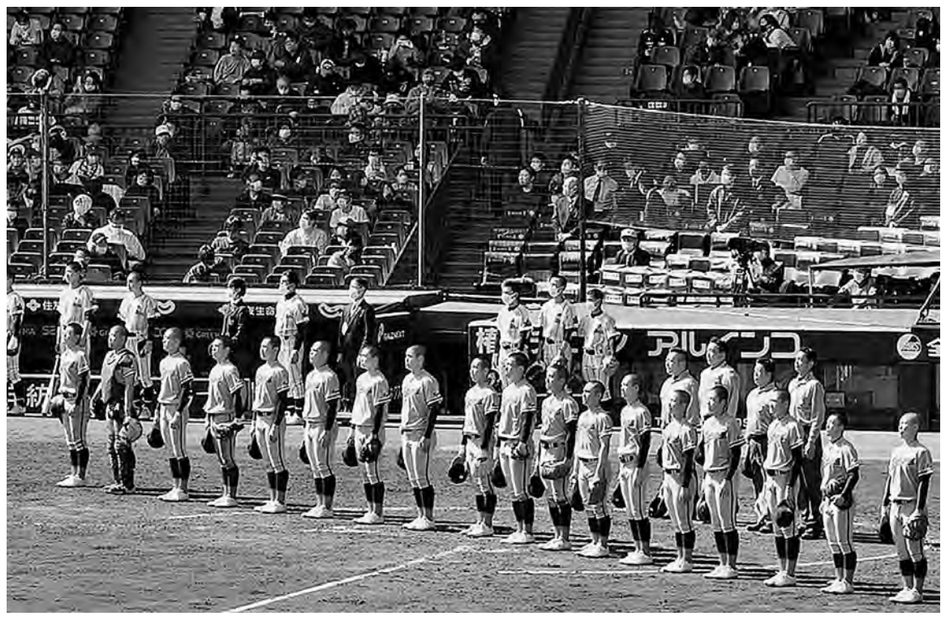
対象は1歳から18歳の高校生まで。民団とはかかわりなく地域で独自に活動している団体も含めた。

配布物は韓国語と韓国文化の教科書、在日同胞の歴史関連教材などで、対象年齢によって異なる。一緒に菓子・食品も同封した。

発送には青年会OBや学生会メンバー、留学生ら20～30代の青年がボランティアとして参加。15から20日までの1週間、箱詰め作業と発送に携わった。

【キャンペーン対象等について】○対象のお客さま <ご新規のお客さま> 2021年9月1日（水）以降に「モバイルアプリ口座開設」または「WEBで口座開設」で当行に普通預金口座を新規開設された個人のお客さま（お申込みは18歳以上の方が対象となります。また、SBJダイレクトのご加入が必須となります。）店頭窓口での口座開設は本キャンペーンの対象外となりますのでご注意ください。<すでに当行とお取引のあるお客さま>2021年8月31日（火）時点で当行に預金口座をお持ちの個人のお客さま○キャンペーン対象定期預金はSBJダイレクト（インターネットバンキング・スマートフォンバンキング）、モバイルアプリにてご開設ください。店頭での口座開設は、キャンペーン金利は適用されませんのでご注意ください。SBJダイレクト、モバイルアプリのご利用は、当行に普通預金口座をお持ちの18歳以上の方が対象となります。○対象商品および預入金額<スーパー定期預金（インターネット専用）>1円以上1,000万円未満<大口定期預金（インターネット専用）>1,000万円以上 ○本キャンペーン金利は当初預入時のみ適用致します。満期日以降は店頭表示利率を約定利率として適用します。○原則として、定期預金の中途解約は致しません。やむをえず中途解約する場合は、当行所定の期日前解約利率を適用します。満期日を過ぎてから解約する際の満期日から解約日までの利率は、解約日の普通預金金利を適用いたします（自動継続を除く）。自動継続の場合、継続日における店頭表示利率を適用いたします。○各商品の詳細は、当行ホームページまたは店頭の説明書にてご確認ください。○上記期間内であっても、予告なく本キャンペーンは終了または内容を変更する場合がございます。最新の情報は当行ホームページでご確認ください。【2021年11月1日現在】
SBJ銀行 お問い合わせ 0120-015-017 受付時間 平日9:00～18:00（土日・祝日・年末年始除く） https://www.sbjbank.co.jp SBJ銀行 検索

日々の活動 着実に前進



京都国際が春夏連続甲子園　夏は４強

京都国際高校が春夏連続で甲子園に初出場。夏の甲子園では４強入りという、聖地に新たな記録と記憶を刻んだ。勝利のあと球場に響いた韓国語の校歌は全国の同胞を感激させた。京都国際学園の李隆男理事長と朴慶洙校長は「全国の団員の声援に感謝しています」とメッセージを寄せた。

張明夫投手の生涯映画化

韓国プロ野球黎明期の83年に三美スーパースターズ（当時）に入団し、30勝16敗６セーブという驚異的な成績で最多勝を獲得した在日同胞、張明夫投手（日本での登録名は福士敬章）の生涯をテーマとしたドキュメンタリー映画「玄界灘の落ち葉」の撮影が進んでいる。作品を企画した李泳坤さん（28）は張選手の人生を通して、在日の献身的な祖国愛を思い起こすきっかけにしていきたいと、日本留学中に手掛けたテーマをもとに続編として再取材している。

東京韓学土曜学校 修了生１万人突破

東京韓国学校附設「土曜学校」の修了生が1993年の開設以来、１万人を突破した。同校「土曜学校」は都内の在日韓国人を対象とした民族教育の中心的な役割を果たしている。幼稚クラスでは毎年200人を超える幼児たちが学び、就学年齢に達すると、その大半は同校に進学する。進学に間に合わなかった児童も１、２年で編入学をめざすという。

中崎はな保育園開園

社会福祉法人ハナ集いの家「中崎はな保育園」（呉龍浩理事長）が３月24日、大阪市北区の大阪韓国人会館の隣接地で竣工し、開園した４月１日に入園式を開催した。０歳から３歳児までの乳幼児37人が入園した。同保育園の開園は大阪市北区が喫緊の課題としてきた待機児童解消の一助につながり、地域にとっても朗報となった。

福島県沖地震、同胞の家屋にも被害

2月13日に福島県沖で発生し最大震度6強の揺れを観測した地震で、福島県や宮城県の民団や同胞の家屋や事業所にも影響が広がった。民団福島本部会館は1階に店舗を構えるあすか信用組合郡山支店、2階の民団本部事務所内は事務機器や家具が倒壊し、一時は停電状態となったが翌日朝には復旧した。事務局では翌日早朝に孫哲鎬団長をはじめ職員全員が出勤し団員の安否確認を続けた。人命に関わる大きな事故はないが、団員の自宅、営業店舗等に被害が出た。

ヘイトS対策法から5年

日本初の反人種差別法「ヘイトスピーチ対策法」の施行から5年を迎えるのを前に5月26日、日本における「差別禁止法の現段階」をテーマとしたオンライン集会と「人種差別撤廃基本法を求める議員連盟」の主催する院内集会が相次いで開かれた。両集会での報告から国と地方における進展と課題をまとめた。

「腹割って話し合って」…両国政府に強く要請

民団中央本部と東京本部は１月12日、東京都内のホテルで2021年度中央新年会を開催した。コロナ禍の中、感染防止に細心の対策を施し、参加者も首都圏の民団幹部や傘下団体役員、日本の国会議員など、例年の３分の１ないし４分の１にあたる150人と、規模を大幅に縮小した。テーマは「韓日友好」。あいさつに立った呂健二団長は「両国政府は相手への理解と尊敬の念を抱いて腹を割って話し合ってほしい」と強く要請した上で「今年１年は正念場。皆さんと共に民間交流の先頭に立つ」と決意を披露した。

中央委・大会 初の書面決議

民団の第75回定期中央委員会が2月26日、東京・港区の韓国中央会館で書面決議で開かれた。郵送で届いた書面決議書は中央委員在籍198人中165人の参与で成立。2020年度の活動を総括するとともに、①韓日友好親善②同胞の生活と権益守護③次世代育成の3大重点課業と▽組織基盤強化と同胞社会和合▽韓半島の平和寄与の5大方針を柱にした新年度活動方針案を原案通り採択した。この模様はライブ配信された。

中央執行部スタート

2度にわたって休会していた民団の第55回定期中央大会が4月6日、韓国中央会館8階大ホールで続会され（写真）、この席で選挙管理委員会（辛容祥委員長）は改めて、団長に立候補していた任泰洙副団長の立候補登録を取り消し、呂健二前団長の無投票当選を宣言した。3機関長ともに単一候補者となったことで、団長に呂健二候補、議長に朴安淳候補、監察委員長に金春植候補が選出されたことを宣言した。

本年度活動方針を修正

新型コロナウイルス感染拡大の「第4波」が猛威を振るい、3度目の非常事態宣言発出によって、民団中央本部では執行委員会などを通じオリニジャンボリーの開催見送りや各種行事の見直しなど、新年度活動方針を再検討すると共に、当面の行事や活動方向を修正した。1泊2日のリーダー育成スクール（組織学院）も特別措置として短日開催とした。

当委員会の作成に係る2021年11月19日付け検証結果報告書の要旨は以下のとおりですので、ご報告申し上げます。

第１　中央議長に対する戒告処分に関する検証

１　問題点

中央監察委員会は、2021年9月15日付け公文（韓民中監発第55－025号）にて、朴安淳議長の規約運用規定第64条運用規定第6項違反を認定し、朴安淳議長に対する戒告処分を行った。

しかし、同戒告処分は、中央委員会の事前の同意を得ていない。

また、その処分理由は、朴安淳議長が韓賢澤前副議長及び趙龍済前副議長から「辞表」の提出を受けていないにも関わらず両名の辞任を通報する内容の公文（韓民中議発第54－010号・第54－011号）を発したことを唯一の処分理由とするものであるが、かかる両名の辞任ないし辞意表明は第55期定期中央大会における総辞職後になされたものである。

２　検証

（１）規約第75条但書（１）が定める「中央委員会の同意」は事前の同意に限定される

①1996年3月27日に制定された当時の「規約運用に関する見解統一」には、「3．中央委員を懲戒処分する時の中央委員会の同意に関して」「中央委員の権威を高め、身分を保障するために、処罰する時には中央委員会の同意を前提条件に規定している。しかし、現実的には1年に1回しかない中央委員会まで待てない場合が予想されることに鑑み、事後承認も可能とする。」との規定があった。

②しかし、2000年1月18日に開催された第52回臨時中央委員会において、上記見解統一について規約と矛盾する等との多数の反対意見があり、中央委員会の事前承認なく行われた議長及び副議長に対する懲戒処分について、処分手続きが適切でないことを指摘する決議がなされ、上記見解統一の改廃は第53回定期中央委員会に委ねられた。そして、同年3月23日に開催された第53回定期中央委員会において、上記見解統一について、改正案（事後承認の対象を地方大会で選出された者に限定する案）すら採用されず、満場一致で全文削除することが決議された。

③かかる経緯からすれば、規約第75条但書（１）が定める「中央委員会の同意」については、第52回臨時中央委員会及び第53回定期中央委員会を通じて、事前同意に限定され事後の同意は例外なく一切許容されない、との統一解釈が形成されたことは明らかである。

（２）韓賢澤前副議長及び趙龍済前副議長が2021年3月12日に行った辞任ないし辞意表明は、規約運用規定第64条運用規定第6項が定める「辞表提出」を要しない

①規約運用規定第64条運用規定第6項は、「役員が任期途中に自らの意思で辞退する場合は辞表提出によって任期が終了し、手続きのみが残る。」と規定している。したがって、同条同項が定める「辞表提出」が必要となる「役員が」「自らの意思で辞退する場合」とは、当該役員が「任期途中」に行うものであり、かつ、当該辞表の提出に「よって任期が終了」するもの（任期を終了させる法的効果のあるもの）に限られる。

②2021年3月12日時点において、韓賢澤前副議長及び趙龍済前副議長の任期はいずれも総辞職により満了していた（規約運用規定第64条運用規定第5項）。

③したがって、韓賢澤前副議長及び趙龍済前副議長が2021年3月12日に行った辞任ないし辞意表明は、いずれも韓賢澤前副議長及び趙龍済前副議長の任期を終了させる法的効果を有するものでないのであるから、辞表提出を要しない。

④規約第65条は、「大会期間中、中央委員及び代議員の任期完了または総辞職があった時には該当構成員が大会完了時までその任務を引き続き行使する」と規定している。議長、副議長等が「当然職」（規約第17条）として中央委員の身分を有することから、規約第65条は副議長についても適用され、「該当構成員」として「大会完了時までその任務を引き続き行使する」こととなる。韓賢澤前副議長及び趙龍済前副議長は、既に副議長の地位は有しないものの、同規定に基づき、総辞職後第55回定期中央大会が完了するまで、副議長としての「任務」を課されており、両名の辞任ないし辞意表明をもってしてもかかる規約に基づく「任務」を免れることはできない。したがって、両副議長の辞任ないし辞意表明は、（副議長の地位そのものではなく）副議長としての「任務」ないし職務を放棄する旨の事実上の意思表示に過ぎない。

⑤朴安淳議長の発した公文は、両副議長が辞意表明により、統会において議事進行を務める意思が事実上ないことを明確にしたことから、混乱が生じないように、あらかじめ両副議長が統会において議事進行を務めないことを知らせる趣旨であった。

３　結論

安淳議長に対する戒告処分は、中央委員会の事前の同意を得ておらず、その手続きにおいて規約第75条但書（１）に違反している。また、同戒告処分は、規約運用規定第64条運用規定第6項の適用を誤ったものであり、その内容においても規約違反が認められる。

第２　直選中央委員35名否認の件に関する検証

１　問題点

中央監察委員会は、第55期における顧問及び直選中央委員35名の選出について、呂健二団長及び朴安淳議長は同意しているものの、金春植監察委員長が同意しておらず、直選中央委員35名については金春植監察委員長との協議を経ておらず、無効であると主張している。

２　検証

（１）三機関長に対する大会委任事項に関する決定は多数決による

①規約においても中央大会の委任決議（委任状の記載）においても、中央大会決議の委任事項に関する決定について全員一致を要するとの定めはない。

②一般に、協議ないし会議体を意思決定機関とする団体の意思決定は、多数決原理のよるのが原則である。民団においても、中央大会及び中央委員会における議決は多数決によることが明記されている（規約第14条、第19条）。

③規約において全員一致を要求する旨の定めは存在せず、欠員が生じた場合の補選など、本来、中央大会で行うべき決定事項の一部を中央委員会において決議する場合においてでさえ、「3分の2以上」の多数決によるものとしている（規約10条但書、17条但書、23条2項但書、31条但書（1）、63条）。

④顧問及び直選中央委員の選任を新任三機関長に委任することが中央大会における慣行となっている理由は、これらの候補者の総数が多いために中央大会において実際に選任することが現実的に困難であることによる。かかる委任の理由からしても、その決定を新任三機関長の全員一致によるものとしなければならない合理性は見出し難い。

⑤民団がその意思決定において採用する多数決原理を排してまで、顧問及び直選中央委員の選任に関する委任事項の決定を、ことさら新任三機関長の全員一致と解しなければならない合理的理由はない。

（２）顧問及び直選中央委員35名の選出・決定に関するプロセスに瑕疵はない

①委任状には、「直選中央委員の選出について（三機関長）」とのみ記載されており、「協議」等の文言が用いられておらず、その決定過程についての制限は明記されていない。

②顧問及び直選中央委員35名の選出・決定のプロセスも、従前の慣行に従ったものであり、呂健二団長が朴安淳議長及び金春植監察委員長に対して推薦したい候補者がいればこれを推薦するよう申し向けた上で、呂健二団長が選定ないし公表した候補者について、金春植監察委員長において異論を含む意見があったが、かかる意見を踏まえて検討を行い、当該意見に関して最終的に意見の一致をみなかったために、三機関長の多数により、顧問及び本件直選中央委員の選出を決するとの過程を経たのであって、中央大会の委託の趣旨に背くものではなく、瑕疵はない。

③金春植監察委員長自身、5月13日及び5月19日の「三機関長会議」の場において、公表された具体的な顧問及び本件直選中央委員について、反対する旨の意見を述べ、それに対して、呂健二団長及び朴安淳議長がこれら顧問及び本件直選中央委員について賛成であることを前提に「追認してくれ」と意見を述べ、金春植監察委員長がこれを「認めることができない」と述べ、協議を行ったことを認めている。かかる協議は委任期間である2021年6月15日までに行われたものである。そして、かかる協議の結果として、呂健二団長と朴安淳議長の賛成により、顧問及び本件直選中央委員が改めて選出・決定されたといえる。したがって、仮に中央監察委員会の見解を前提としても、本件直選中央委員の選出・決定に関するプロセスに瑕疵はない。

３　結論

顧問及び直選中央委員35名の選出・決定は、その内容及びプロセスにおいて、中央大会の委任決議の委託の趣旨に背く点はなく、顧問及び直選中央委員35名の選出・決定に瑕疵はない。したがって直選中央委員35名の選出・決定が無効であるとの中央監察委員会の見解は誤りである。

第３　中央団長及び中央議長に対する辞任勧告に関する検証

１　問題点

中央監察委員会は、2021年9月22日付け公文（韓民中監発第55－026号）において、呂健二団長及び朴安淳議長に対し、規約違反がある等の理由により、辞任勧告を行った。

同辞任勧告は、呂健二団長及び朴安淳議長における規約違反を理由とするものであるが、その具体的理由として、本件直選中央委員の選出・決定に関する瑕疵を挙げている（この点に瑕疵がないことは上記のとおりである）。

これに加え、①中央監察委員会が2021年7月21日に組織局に対して、韓民中監発第55－012号に相当する内容の草案を送付し、その発信を指示したが組織局が同公文を発しなかったこと、②金春植監察委員長が2021年8月5日に組織局副局長に対して架電し、第55期中央大会執行委員会会議資料（第1回～第3回）の写しを各3部、金春植監察委員長の自宅住所に宛てて郵送するよう依頼したが断られたことが、それぞれ規約第75条運用規定第2条第1号に定める業務妨害に該当することも理由に挙げられている。

２　検証

（１）中央監察委員会の公文発信が「妨害」されたとは評価できない

公文発信にあたり、その内容に事実誤認等の誤りがないか確認してほしい等と求め、ある程度留め置くこと自体は特段問題となる点はない。その後、中央監察委員会は、組織局ないし呂健二団長に対して再度の発信要求をすることもなく、約一週間後に自ら草案とほぼ同内容の公文を現に発信したのであるから、中央監察委員会の公文発信が「妨害」されたとまでは評価できない。

（２）組織局が金春植監察委員長の文書送付依頼について団長の了解を求めたことは適切であり、中央監察委員会の団務監査が「妨害」されたとは評価できない

前例のない金春植監察委員長の中央執行委員会会議資料の写しの金春植監察委員長自宅宛て送付要求に対し、組織局が呂健二団長の許可を得るよう求めたことは、職務分限及び事務規定第67条（「本規定に定めていない事務上の処理事項は随時団長がこれを指示する。」）に則った対応といえる。また、組織局は金春植監察委員長に対し、民団本部事務所における閲覧はいつでも受け付ける旨を繰り返し伝えていたのであるから、中央監察委員会の団務監査が「妨害された」等と評価できる事実はない（付言すれば、金春植監察委員長は呂健二団長に対して会議資料送付の打診すら行っていない）。

３　結論

中央監察委員会が行った辞任勧告がその理由として記載した、呂健二団長及び朴安淳議長における規約違反の事実はないのであり、同辞任勧告はその理由において規約の適用を誤っている。

以上

監察機関職務検証委員会
検証結果報告書
（要　旨）

コロナに苦しみつつも

民団社会 2021年

創団75周年を迎えるあたり、①韓日友好親善②同胞の生活と権益守護③次世代育成の3大重点課業と、①組織基盤強化と同胞社会の和合②組織力量の強化③韓半島の平和寄与の3つの重点方針を掲げた2021年。しかし、2年越しに続く、コロナ禍の影響で、多くの行事や事業が中止・延期・規模縮小の状態を余儀なくされた。次世代育成イベントのシンボルでもあるオリニジャンボリーと中・高校・大学生の母国訪問研修も2年連続で中止に追い込まれた。

13回目を迎えた韓日祝祭ハンマダン(日韓交流おまつり)も昨年に続くオンライン方式での開催となった。

しかし、前年の経験を生かし、各地方本部と支部、そして傘下団体はネットを活用したアプリを駆使してオンラインとオフラインを合わせたハイブリッド形式でイベントや会議などを展開した。あわせて、10月に緊急事態宣言が全国的に解除されたことに伴い、各地方と傘下団体が一斉に対面形式に転換し、この2年分の「再会の場」で同胞たちの笑顔が戻り始めた。

婦人会では6月に約2年ぶりとなる全国大研修会を開催、青年会も11月に第33回「コリアン・ユース・アカデミー」（KYA）を対面形式で開催し、再会を喜び合った。

また、中央本部のメンバーが加勢した集中活動、「ネットワークを作ろう！家庭訪問活動」を香川、奈良で展開したほか、各地方がコロナ禍の団員の安否確認と激励する訪問活動も展開された。

コロナ克服ヘイト根絶――光復節で誓う

民団の第76周年光復節中央記念式典は８月15日、東京都江東区の「ティアラこうとう」で開催した。新型コロナウイルス感染防止を踏まえ、規模を大幅縮小し、参加対象を制限し、キャパシティ1300人のホールに約230人が参加した。昨年に続き、日本各政党国会議員の招待も取りやめ、恒例となっていた芸能公演や大抽選会も中止にし、45分ほどの式典だけで閉幕した。式典ではコロナ危機を克服しヘイトスピーチ根絶などの決議文を採択した。

2年ぶり婦人会大研修会、再開喜ぶ

「在日韓国女性の方向性と役割セミナー」と題した、婦人会（劉代永中央会長）の全国大研修会が6月2日の九州・中国・四国地区を皮切りに中北、近畿、関東、東北と続き、全国7ブロックで500人余りが参加した。事実上、2年ぶりの地協別開催とあって、参加した会員らは久方ぶりの再会を喜び合うと共に、各地域同士の情報を交換しあった。また、11月には東地区と西地区の2ブロックで秋季全国大研修会を開催した。

オンラインで活動者研修

青年会中央本部（鄭昇栄会長）は10月3日、東京の韓国中央会館会議室で第3回幹部活動者ワークショップを開催した。新型コロナウイルスの関係で5月の第1回、7月の第2回と同様、会場には中央常任と東京が参加し、オンライン会議システムの「Zoom」を活用し、ハイブリッド形式で開催した。地方本部からは幹部ら15人が参加した。

「感謝します」在日外国人にも接種開放

民団のコロナワクチンの職域接種が９月11日から民団中央会館で行われ、土日の８日間、在日同胞だけでなく、都内をはじめ、神奈川や埼玉、千葉の各県などから日本人と留学生や定住外国人も含む多くの人々が接種にかけつけた。民団は、古くから「多文化共生社会の実現」や「日本地域社会への貢献」を唱え、阪神・淡路大震災や東日本大震災に際しての避難所での炊き出し、救援物資配布などの救援活動を展開してきたが、今回もワクチン接種を通じて、国境を越えた助け合いの精神を遺憾なく発揮した。

2年ぶりボウリングで交流拡大

民団東京本部（李壽源団長）の第16回団長杯争奪ボウリング大会が10月16日、港区の東京ポートボウルで行われ、民団各支部をはじめ傘下団体や各機関から老若男女約140人が熱投した。昨年はやむなく中止を余儀なくされたが、緊急事態宣言が解除されたこともあり、2年ぶりの開催にこぎ着けた。また、在日本大韓ボウリング協会（韓新悟会長）も12月4日、2年ぶりとなる同協会の公式大会を開催した。

東京本部団長杯ボウリング大会

在日本大韓ボウリング協会の公式大会

安昌林、五輪銅メダル…在日選手45年ぶり

東京五輪の柔道男子73キロ級が７月26日、日本武道館で行われ、在日３世の安昌林(27)が３位決定戦で、アゼルバイジャンの選手を終了７秒前に背負い投げで「技あり」を奪い、銅メダルを獲得した。在日同胞としてのメダル獲得は朴英哲が銅（76年モントリオール）を獲得して以来、45年ぶりとなる。安昌林は京都市から「京都市スポーツ最高栄誉賞」を受けることになった。

「会えなくても共に」オンライン韓日祝祭

写真上はK‐POPコンサート、下はクイズ大会決勝

韓国人と日本人がひとつになって作り上げていく最大規模の韓日交流イベント「第13回韓日祝祭ハンマダン（日韓交流おまつり）」が９月11日、新型コロナウイルスの関係で昨年に続いて、オンラインで開催された。今年のスローガンは「会えなくても共に歩もう」で、昨年よりコンテンツをパワーアップし、オンラインで視聴者が参加できるプログラムも多く用意した。

長崎原爆同胞慰霊碑除幕　民団の努力実る

長崎への原爆投下で犠牲になった韓国人を追悼する慰霊碑が長崎市の平和公園に建立され、11月6日に除幕式と慰霊祭が執り行われた。原爆同胞犠牲者を慰霊する碑は広島には建立されたが、長崎には建てられなかった。建立へ動き出した94年から、実に27年を経てようやく実現した。

対面の研修会、相次ぎ再開

新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言が解除されてから1カ月余り、民団社会でも待ちわびていたように東京、大阪など各地方本部や婦人会などが、対面による研修会を開催し、「学び実践する組織」へと進み出した。東京本部の2021在日同胞社会リーダーフォーラム（組織幹部研修会）は10月14日、神奈川県箱根町に140人余りが参加、大阪本部の「組織幹部研修会」を10月13、14の両日、広島市内の広島韓国人会館で開催した。

組織学院も2年ぶり

在日同胞リーダー育成スクール（組織学院）が10月から12月にかけて石川、大阪、中央、奈良、神奈川の5教室で開かれた。同学院は本来、1泊2日の日程で行われていたが、新型コロナウイルス感染防止対策として、今年に限って1日限りの開催という特別措置がとられた。とくに大阪教室では過去最多の84人が受講し、79人が修了した。

全国の仲間、一堂に2年ぶり対面KYA

青年会（鄭昇栄中央会長）を担っていく多様な人材の育成を目的とした第33回「コリアン・ユース・アカデミー」（KYA）が11月６、７の両日、愛知県名古屋市内のホテルで開かれた。昨年は新型コロナウイルス感染拡大のため中止、今年６月の第32回はZoomを活用したオンラインとオフラインのハイブリッド形式。緊急事態宣言の全面解除により２年ぶりに全国の仲間が一堂に集い、対面方式での開催となったことで、待ちわびていたかのように、定員の50人をこえる65人の青年が参加した。

宣言解除で集中家庭訪問再開

10月１日に新型コロナウイルス感染症・緊急事態解除宣言が全国的に解除されたことから、香川本部は10月５日までの４日間、奈良本部でも11月29日までの３日間「ネットワークを作ろう！家庭訪問活動」を実施した。昨年から続くコロナ禍の影響で行事が中止または延期となり、団員と同胞たちの把握を図るとともに、慰労と激励も兼ねて団員と顔を合わせることを目的に集中活動に踏み切った（写真上は香川、下は奈良）。

北送の事実を記憶し、人権尊重の精神育む

“柳の木通り”リニューアルへ

「新ボトナム会」始動

【新潟】1959年12月14日に新潟港からの第1次北送船に乗船した同胞らが新潟市内に植栽した柳が並ぶ「ボトナム（柳の木）通り」のリニューアルプロジェクトが動き出した。記念植樹から62年が経過したいま、当時の300本余りの柳の木は多くが枯れ果て、いまや見る影もない。プロジェクトでは柳の木をよみがえらせることで北送の事実を記憶し、人権尊重の精神を育む場所としていく。

プロジェクトの当面の目標は無残にも枯れはてた柳の木の植え替え。さらに中・長期的には北送の悲劇から人権の大切さを考える資料館の建設と、北送者9万3000人の名前を記した碑の建立を目指している。

新ボトナム会が13日、新潟市内で開催した整備プロジェクト発足式フォーラムで発表した。会の代表は元在日同胞脱北者の川崎栄子さん（79）が務めている。

代表の川崎栄子さん（左）

川崎代表は2019年の北送60年追悼式典で新潟市を訪れたとき、「ボトナム通り」を歩いてみた。風にそよそよ揺らいでいたかつての風情はどこへやら、「82本がぽつり、ぽつり。すたれるにまかせ、とても並木とはいえない。なのに、植え替えに関心を持つ人もいなかった」。このとき、北送者の自由と人権を侵害した「負の遺産」として残すべきだと川崎代表は心に誓った。

新たな植栽は行政の理解と後押しを得たうえで、来春からの実施を予定している。プロジェクトに期待する法政大学国際文化学部の高柳俊男教授は「東京から苗木を運んでこと足りではない。現地の人々による機運の盛り上がりがポイントになる」と東京からビデオメッセージを寄せた。

植栽事業と同時に、北韓による人権被害を記録として残し、2度と繰り返さないように記憶として伝えていく「資料館」と、北送9万3000人の名前を刻んだ沖縄のひめゆりの塔をイメージした碑の建立も目標としている。資料館はスペースの半分を日本人拉致、残り半分を北送被害にあてる。

元在日の脱北者で、現在は新ボトナム会の副代表を担う石川学さんは「北送も拉致もだまして連れていった点では同じ。別に考えてはならない」という。川崎代表は「日本で平和といえば広島、自由・人権の拠点といえば新潟とみんなが思い浮かべられるような観光資源にしていきたい」と話している。

新ボトナム会ではプロジェクトへの寄付金を募っている。振込口座はゆうちょ銀行。記号・11330、番号・00177341、名義・シンボトナムカイ。ゆうちょ銀行以外の金融機関からは店名・一三八（イチサンハチ）、種目・普通、口座番号・0017734

「ボトナム通り」

北韓こそ「地上の楽園」という甘言を信じた新潟県内の北送者が中心となって1959年12月14日の第1次船乗船を前に同年11月6日から7日までの2日間、新潟市中央区東港線道路の約1・5㌔強の区間に柳の木306本を植栽して県に寄贈した。「住み慣れた日本へ絆の証を」と費用の40万円（当時）はみんなで出し合った。この街路樹は地元で通称「ボトナム（柳の木）通り」と呼ばれている。この多くが折られたり、枯れたりして残るのは80本ほどとされる。

善隣友好の“国書”交換

「京都コリアフェスティバル」

昨年に続いての縮小開催

【京都】民団京都本部（金政弘団長）は19日、京都市内のホテルで今年で10回目となる「京都コリアフェスティバル」（孔信根実行委委員長）を縮小開催した。新型コロナウイルスの感染症予防のため昨年に続きメーンとなる朝鮮通信使再現行列を中止し、入場者も200人に限定した。

民団南京都支部オリニクラブの愛くるしい伝統舞踊とチャング演奏で開幕。在日3世のミュージカル歌手で元劇団四季団員の鄭雅美さんが独唱を披露した後、「国書」交換式が行われた＝写真。

朝鮮正使には民団京都本部の宋基泰常任顧問、日本側京都所司代には日韓親善協会京都府議会議員連盟の渡辺邦子会長が扮した。それぞれ善隣友好精神で両国の友好に力を入れると誓いあい、会場から大きな拍手が送られた。

午後からは民団本・支部、傘下団体がユンノリ対抗戦に興じた。このほか、伝統舞踊とサムルノリ、K－POPカバーダンスの披露もあった。最後は全員参加のビンゴゲームでもり上がった。

甲子園出場の感動再び

京都国際「目指すのは日本一」

来春も出場期す

夏の第103回全国高校野球選手権大会に初出場し、4強入りを果たした京都国際高校（李隆男理事長、朴慶洙校長）は4日、「甲子園出場祝賀会」を開いた。

同祝賀会は、コロナ禍で自粛を余儀なくされた「春夏連続甲子園出場祝賀会」を、緊急事態宣言の解除にともない開催。

野球部員をはじめ、全校生、教職員、保護者、理事会、婦人会の約300人が参加した。

最初に朴校長が甲子園出場という野球部の快挙を称え、次ぎに金安一野球部後援会会長が1999年当時、学園副理事長として、学校活性化の一環のため、野球部を創部した経緯から、23年の歳月を経て「奇跡」を起こしたと、感無量の思いを伝えた。

後輩たちにメッセージを述べる山口吟太さん

続いて、駐大阪韓国総領事館の趙成烈総領事、民団中央本部の呂健二団長の祝電が届けられたことが報告され、校内に掲示された。

その後、「甲子園の軌跡」として甲子園での熱戦が動画と写真を交えて流されると、白熱した戦いを繰り広げたナインの姿に、参加者は感動を再び呼び起こした。

最後に小牧憲継監督は次に我々が目指すのは「日本一です」と力強い決意を表明し、前主将の山口吟太さんは後輩たちに向かって「春の甲子園出場がかなうことを強く願っている。来るべき日に向け、たゆまない努力を怠らないように」との熱いメッセージを残し、祝賀会は盛会の内に終了した。

脱北者の絆を確認

関東と関西で交流

民団支援センター主催

脱北者支援民団センターが主催する交流会が関東で11月27日、関西でも18日に開かれた。

両地区合わせて約100人が関東では屋形船で、関西では中華料理での昼食とゲームなどに興じながら再会を喜んだ。

関西交流会には金泰勲中央本部副団長が駆けつけ「これからもみんなが強い絆で結ばれることを期待する」と述べた。

コロナの影響により例年より参加者は少なかったが、今年からは脱北者支援民団センター関西のセンター長を朴滋錫大阪本部副団長が兼任することになり、「センターの重要性とさらなる発展のために努力していこう」と挨拶した。

ハンセン病療養施設を慰問

民団岡山　同胞入所者と交流

【岡山】民団岡山本部（金成植団長）は7日、瀬戸内市の離島に建つ国立ハンセン病療養施設邑久光明園と長島愛生園を慰問し、同胞入所者と交流した＝写真。新型コロナの感染予防のため、昨年に続き金学事務局長が単身で面会し、慰問金と韓国食品を伝達した。

邑久光明園には6人が入所している。入所者の平均年齢は90歳近くと高齢で、ベッドから離れられない人も多いという。面会できた2人からは同胞の元入所者が趣味で制作した備前焼が遺品として託された。

金事務局長は「あんなに元気だったのに」と驚きの表情。「これからもなにか困ったことがあれば相談してください」と呼びかけた。

韓国伝統文化の競演

民団大阪主催　9団体70人が出演

【大阪】大阪を拠点に文化活動を行っている同胞らによる韓日友好親善のタベ「韓国伝統文化マダン」（民団大阪本部主催）が12日、大阪市内の大阪国際交流センターで2年ぶりに開かれた。15回目。地域住民ら700人が来場した＝写真。

開会に先立って民団大阪本部の李元徹団長が「韓国伝統芸能を最後まで楽しんでください」と呼びかけた。

出演者は9団体、約70人。第1部で韓国伝統舞踊柳会（パボドゥルフェ）の舞踊や元京愛絃ソリ韓国伝統国楽院の民謡、大阪金剛インターナショナル小中高等学校のサムルノリ部・舞踊部がサムルノリ演奏と扇の舞を披露した。

第2部では呂英華韓国伝統芸術院の巫女の舞、安聖民さんはパンソリ、チャンゴオーケストラ「SHIFA」がソルチャンゴ。ラストは白頭学院建国伝統芸術部が「地神パルギ」で締めくくり、観客を魅了した。

正月トック携え

高齢者施設慰問

婦人会兵庫本部

【兵庫】婦人会兵庫本部（崔和代会長）16日、特別養護老人ホーム「故郷の家・神戸」（長田区、松下良平施設長）を訪れ、トック30㌔を届けた。

松下施設長は「毎年楽しみにしています。感謝の気持ちでいっぱい」と喜んだ。同本部から李貴連顧問、朴萬里子総務部長、朴和代総務次長が同行した。

同じく同本部会館に隣接している神戸定住外国人支援センター（金宣吉理事長）が運営するグループホーム「ハナ」（神戸市長田区）にも15㌔届けた。崔会長は「いつまでも元気で長生きしてください」と話かけ、ハルモニたちは笑顔で出迎えた。

神戸市内のグループホーム「ハナ」で

各地で料理教室

婦人会滋賀本部

婦人会滋賀本部（李美姫会長）は16日、甲賀市内で文化セミナー「韓国料理教室」を開催した。メニューはキムパとプルコギ。李会長と同本部の朴永子文化部長が実演した。

李会長は「皆さんの顔を見て行事が出来ることをうれしく思う。またコロナの影響はあるものの、これからもできることから行事を企画し、皆さんに喜んでもらいたい」と話していた。

同本部傘下の7支部から会員40人が参加。甲賀市国際交流協会の野口喜代美副会長と大河原圭子事務局長、滋賀県立陶芸の森からもベ・スジョン学芸員が応援にかけつけた。

婦人会三重本部（尹栄子会長）は4日、地域住民を対象とした韓国料理体験教室を津市内で開催した。民団三重本部（殷慶基団長）、県日韓協との共催。

2回目となった今年も定員いっぱいの30人が応募。キムチづくりに挑戦した。尹会長は「皆さんに楽しんでもらえて何より。これからも地域交流に力をいれていきたい」と述べた。

民団岐阜本部（董勝正団長）は11月19日、岐阜市内の市橋コミュニティセンターで「韓国料理教室」を開催した。同本部の韓国語教室に通う日本人の生徒とその友人ら20人が参加した。

メニューはホルモン鍋と韓国風サラダの2品。同本部の黄清子副団長が作り方を指導。同本部の韓国語教室に通う日本人の生徒とその友人ら20人が参加した。

婦人会滋賀のセミナー

オリニ課外授業

民団倉敷支部

【岡山】民団倉敷支部（李大成支団長）は11月27日、同支部「土曜学校」に通うオリニを香川県への日帰り課外活動に招待した。

オリニ12人が保護者付き添いのもと参加、綾歌郡にある四国水族館と中津万象園を見学した。

三重韓国会館で韓日オリニ研修

【三重】民団三重本部（殷慶基団長）は12日、同本部会館を地域の子どもたちに開放し、「韓日オリニ研修会」を開催した。夏に予定していたが、コロナの影響で延期となっていた。

オリニたちはキムパづくりを体験し、ユンノリに興じた。殷団長は「これからも民団のいろんな行事に参加してほしい」と呼びかけた。婦人会三重本部の尹栄子会長が応援に駆け付けた。

同胞和合の集い

今年1年を回顧

民団大阪本部

【大阪】民団大阪本部（李元徹団長）は3日、「2021同胞和合・感謝の集い」を市内ホテルで開催した。

李団長は「コロナが思いのほか長引き、先は不透明。そういうなかでも、団員の目線にあわせてボランティア精神で団員が寄りやすい民団をつくっていこう」と呼びかけた。

当日は民団生活相談センター所長で歌手の金昭夫さんによる歌謡ショーもあった。

送年会を開催

婦人会大阪本部

【大阪】婦人会大阪本部（朴米子会長）は2日、大阪市内で2021年を締めくくる送年会を開いた。

朴会長は「皆さんに会えてうれしい気持ちでいっぱい。来年は卓球部が発足して10年を迎え、婦人会大阪の創立75周年という節目の年。楽しい記念行事を皆さんと企画していきましょう」とあいさつした。

婦人会中央本部の劉代永会長からは「地域社会と共生し、オモニパワーで草の根運動を積み重ねていくことで韓日関係の架け橋となる」と激励があった。

民団大阪本部の李元徹団長は「婦人会は民団にとって欠かせない存在。あきらめるよりもあとは上がるしかないという気持ちで邁進していこう」と呼びかけた。席上、国民勲章「石榴章」を受勲した賓春花常任顧問（民団大阪本部顧問）に朴会長から花束が贈られた。

婦人会京都でも

【京都】婦人会京都本部（趙清美会長）の送年会は6日、京都市内のホテルであった。婦人会中央本部の劉代永会長、民団京都本部からは金政弘団長が参席。140人でにぎわった。

席上、趙会長が「互いに労をねぎらいながら親睦を深めよう」と呼びかけた。韓国政府から大統領表彰を受けた姜貞子顧問と民団京都本部団長表彰者に花束が贈られた。

◆Zoomによる国際シンポジウム「韓国近現代演劇と日韓交流」

2022年1月22日。15時30分～17時30分。〈場所〉Zoom virtual conference/ID：846 399 3121+PC：832711　〈使用言語〉日本語・韓国語（同時通訳あり）。事前申し込み不要。無料。

「日韓演劇交流の実践」石川樹里さん（日韓演劇コーディネーター、「『韓国演劇運動史』（柳敏榮著）を訳しおえて」津川泉さん（日韓演劇交流センター）、「韓国演劇の日本紹介ー現況と課題」徐在吉さん（国民大学）。このほか、討論を行う。

問い合わせは武蔵大学人文学部・渡辺直紀研究室（wata2002@hotmail.com）。

二つの国、二つの文化を生きる

何が悲しくて日本人になるのか、日本を克服しよう

出 医療法人社団「正信会」理事長
社会福祉法人「青丘」理事長
正 金 学校法人「青丘」理事長

（私は）当初、医学で祖国の発展に寄与しようと思っていたが、南北朝鮮におかれている厳しい状況から方針を転換し、在日同胞のために尽くそうと考えを変えた。
ー「はじめ」よりー

❖新刊：1800円（税別）電子版も発売中

株式会社講談社ビーシー
〒112-0013 東京都文京区音羽1-2-2
電話 03-3943-6559（書籍出版部）

韓留連

第3回ライクスピーチ開催!!

22年1月8日（土）13時～

場所：MINDAN大ホール
東京都港区南麻布1-7-32

地下鉄南北線／大江戸線「麻布十番」駅下車2番出口から徒歩約3分
都営バス・都06「二ノ橋」／都営バス・反96「二ノ橋」下車

参加申請　E-mailでもお問合せ受付中 ksjp@ksjp1982.com
https://forms.gle/2cgwrDFqL56CaUnL9

Since1982 在日韓国留学生連合会　〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町2-5-5 YMCA 3F

社団法人　在日韓国人本国投資協会

「2022年度 奨学生募集 案内」

【応募資格】
－大韓民国国籍を保有していたか、現在保有している在日韓国人（又はその子女）で本国で修学している者または修学予定者
－経済的な理由から修学及び充実した学校生活が困難な者
－学業成績や人物ともに優秀な者
－4年制大学生又は大学院生で学期が2学期以上の者（2022年3月基準新入生含む）

【今年度募集人数】
－4年制大学生又は大学院生　若干名

【募集要項及び応募書類】
奨学生願書（写真添付）、本人紹介書、奨学生推薦書、所得証明書、その他の関連書類
※必要書類は当協会ホームページ（www.kjdream.org）から募集要項を参照し、ダウンロード

【募集期間及び奨学生選抜日程】
－書類受付期間：2022年1月3日（月）～2月4日（金）（締切日必着）
－書類審査結果通報：2022年2月中旬予定（書類審査合格者に個別通知）
－面接：2022年2月中下旬予定
－最終合格者発表：2022年3月初旬予定（合格者に個別連絡）
※上記日程は協会の事情により変更する場合があります。

【奨学生給付内容】
－当協会の規定により支援

【申込先及び問い合わせ先】
（04513）ソウル特別市中区世宗大路9ギル20
新韓銀行本店19階（社）在日韓国人本国投資協会
TEL.+82-2-777-6910, FAX.+82-2-773-7607
E-mail:kjdream1@kjdream.org

※当奨学金は、生活費支援を目的としておりますので、外部機関及び財団から奨学金を授与されることも可能です。
※当奨学金は、（財）OK培・貞奨学財団、（財）一石教育奨学財団及び（財）クレーン奨学財団から支援される奨学金も含めて支給されます。